

令和 5 年度 群馬県地球温暖化防止活動推進員 活動報告

群馬県 環境森林部 環境政策課

基本データ

- 委嘱人数

158名（令和6年3月31日時点）

【地区別内訳】

中部地区 : 59名

西部地区 : 38名

吾妻地区 : 16名

利根沼田地区 : 16名

東部地区 : 29名

- 委嘱期間

令和5年5月17日～令和7年3月31日

- 令和5年度活動報告書提出者数

100名（63.3%）

1. 日常生活における実践 (自らが取り組んだこと)

	人数（人）	割合（％）
節電・省エネ行動	91	57.6
スマートムーブ（公共交通機関・自転車・徒歩での移動、エコドライブ等）	76	48.1
環境にやさしい買い物（マイバッグ利用、地産地消、てまえどり等）	94	59.5
プラスチックごみ削減	79	50.0
食品ロス削減	87	55.1
5 Rの実践	65	41.1
その他	22	13.9

※割合は推進員全体（158名）に対する割合

1. 日常生活における実践 (自らが取り組んだこと)

～その他の具体的な内容～

- ・ グリーンカーテン
- ・ 生ゴミの堆肥化
- ・ 庭の緑化
- ・ 風呂の残り湯と雨水の再利用
- ・ マイボトルの使用
- ・ ゴミ減量&資源への分別
- ・ 食品の買いだめをしない
- ・ 捨てる衣服をウエス化
- ・ 早朝ゴミ拾いウォーキング
- ・ 住宅の断熱化
- ・ 太陽光発電、太陽熱温水器、薪ストーブの導入
- ・ おひさまエコキュートを購入
- ・ ガソリン車からハイブリット車へ買換え
- ・ EV車両の積極的活用
- ・ 地球温暖化に関する書籍を読む
- ・ 子どもエコクラブのサポート

2. 研修や会議等への参加 (他者の企画に賛同したもの)

	人数（人）	割合（％）
群馬県及び群馬県地球温暖化防止活動推進センターが開催する研修や講演会等	77	48.7
国、市町村が開催する研修や講演会等	39	24.7
民間企業が開催する研修や講演会等	26	16.5
市民活動団体が開催する研修や講演会等	30	19.0
推進員が各地区で開催する地区会議等	34	21.5
その他	5	3.2

※割合は推進員全体（158名）に対する割合

2. 研修や会議等への参加 (他者の企画に賛同したもの)

～その他の具体的な内容～

- 環境アドバイザーの団体が企画したイベント
- 渋川市環境大学
- 尾瀬ボランティア
- 市町村の地球温暖化対策に関する協議会
- 小学生を対象とした環境教育セミナー

3. 普及啓発活動 (自ら企画したもの)

	人数（人）	割合（％）
各種セミナー・研修会・出前講座等の講師を務めた	28	17.7
各種イベント等に出展、協力した	42	26.6
地域住民、勤務先、所属する団体等において普及啓発活動を実施した	46	29.1
広報誌・会報誌の作成や投稿、ホームページ・SNSを通じて普及啓発活動を発信した	27	17.1
その他	6	3.8

※割合は推進員全体（158名）に対する割合

3. 普及啓発活動 (自ら企画したもの)

～その他の具体的な内容～

- ・ 脱炭素ゲームの開催
- ・ SDGsファシリテーターとして活動
- ・ 地区会報「青空ひろば」の編集発行
- ・ 地区別研修（施設見学会）の規格運営
- ・ 大学での講義
- ・ 学校と連携した環境学習の取組
- ・ 群馬県地域環境学習事業の企画運営
- ・ 市内コンビニで啓発活動（予定）
- ・ 市町村のイベントでの展示啓発活動
- ・ 市町村職員との意見交換
- ・ 地区の清掃活動への参加
- ・ 植林活動

4. 活動内容

- ・ 市町村の出前講座の講師
- ・ 大学での講義
- ・ 親子環境教室
- ・ グリーンネイバース群馬登壇
- ・ 脱炭素まちづくりカレッジファシリテーター
- ・ 省エネセミナーや脱炭素支援セミナー、エコクッキングの講師
- ・ ①高齢者向け②児童向け食ロス削減啓発講座
- ・ 食品ロス削減推進サポーターに登録
- ・ 小学生向け乗合バス乗り方出前講座
- ・ 小学校での住教育
- ・ 学童クラブでの温暖化に関する講座
- ・ 市町村の環境に関する講座や群馬県地球温暖化防止活動推進センター等が主催するセミナーへの参加
- ・ 市町村のイベントやぐんま環境フェスティバル等への出展
- ・ 群馬県環境アドバイザーとしての活動（部会、環境フォーラム）
- ・ 群馬県地域環境学習事業の企画運営

4. 活動内容

- ・ 環境にやさしい買い物スタイルの店頭啓発活動への参加
- ・ フードドライブの実施
- ・ 職員へ宴会等における食ロス削減を啓発
- ・ 推進員のためのモデル出前講座に参加
- ・ 「ぐんま環境学校」受講の働きかけ
- ・ 市町村の広報誌による啓発
- ・ 市町村の審議会に委員として参加
- ・ 清掃センターの見学と意見交換会
- ・ ラジオのエコ特別番組に参加
- ・ ショッピングモールでの手回し発電機実演
- ・ 道路清掃
- ・ 事業者と合同清掃
- ・ 社内研修の開催
- ・ 大学生による森林保護活動への協力
- ・ 木育キャラバン

5. 感想・意見・情報提供等

- えこサポカフェ（温暖化防止活動推進センター）に3回参加しました。平日だったので限られた方だけでしたが、「万人のための地球」を残せるかの本を元にいろいろと勉強させて頂きました。ありがとうございました。
- 「万人のための地球を残せるか」の講演のチラシを一般の方に配りお誘いしました。その時の一例ですが、高校生の親子さんから「そういうのって、頭のいい科学者の人がすることだって思っていましたよ。」と言われました。夏の暑さを思い出して「私たちに出来ることはたくさんありますよ。」と切り出してお話しするのですが、ちょっと淋しい現状も感じました。
- 地球温暖化の問題はとても深刻なのに、なぜ日本人はこんなにのんびりしているのか？心配です。

5. 感想・意見・情報提供等

- 一般の方にお話しをすると、話は聞いているがなにをしてよいのか、どうすればよいのかとの質問を良く聞きます。活動の意義を一般の方に知ってもらう活動の仕方を考える必要を強く感じています。
- 学校教育の中で、若年層への普及・啓発に努めてきましたが、引き続き次代を担う人材に関心を持ってもらえるような取り組みをしていきたいと考えています。
- 推進員が高齢化しているので、若い方の参加がしやすいような体制にして頂きたい。
- 子ども（小・中・高生）と温暖化防止について話をしているがまだ、具体的実感が伴っていない。2030年CO₂半減ということは目の前のことではあるが、さらに、2050年問題まで考えれば、すべて今の小中高世代の課題でもある。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・ 前橋地区はほぼ何もしていないので、地区推進員がまずは集まることから始めていくことが必要と考えている。推進員には事務局機能がないため、各自治体担当者がもっと積極的に関与するようにして頂きたい。
- ・ 地球温暖化の要因に地球温暖化係数の大きな冷媒（フロン類）の大気放出がある。この対策としてフロン排出抑制法が出され規制されているが、民間への周知が不足しているように感じます。再度、フロン排出抑制法の説明会を実施する・第1種特定製品管理者や特定解体工事元請業者への立入検査実施回数増大等の対策を講じてはどうでしょうか。一方、カーボンニュートラルとしての省エネの実施があるが、広く浅くの傾向になっている様に思います。広く浅くでなく少し内容のあったものにするためにも、統一した書式や考え方の判るものを紹介して頂いたり、県より提示して頂ける機会があれば良いと思います。省エネ・再エネを通してカーボンニュートラルを進めたいと考えるが、なかなか共感を得られない。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・ 審議会や大学での講義や省エネに関する活動がメインとなっている。反面、自然環境に関しての活動が少なくなっている。今後は、活動の世代交代も必要であるので、自分のスキルを活かした後継者育成の活動も行いたい。
- ・ 推進員や一部の関心のある人達のための活動に感じます。もっと広くみんなが自分事として行動するような活動になるよう今後していきたいと思う。面倒な事は続かないし、楽しみながら環境に良いことになっているような仕組み（難しい）考えられたらと思います。
- ・ 気候変動の激化があまりに急速に進んでいるため、対策に無力感や手詰まり感があります。断熱・遮熱対策を強化することによる省エネルギーは、緩和策としては力不足でも、室内環境を維持して健康を保持する意味では適応策として有効なので、広く普及していきたい。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・ 推進員の人数が少ない、目標である2050年カーボンニュートル達成の
為には、推進員が足りない。推進員を対象とした参加者が少ない、参加す
る方はいつもの顔が多い。地区代表として、参加率の改善や推進員自体の
人数を如何に増やすか、課題とした考えているが、現状では解決策は出て
こない。
- ・ 初めての推進員として活動をしてきた中で、自身の環境意識が向上しまし
た。近い距離は徒歩や自転車で移動するなど、できるだけCO₂を出さない
よう生活を行っています。先進地の視察で太陽光パネルリサイクル工場
（伊勢崎市）を見学した時に、環境に対して熱い思いを持って取り組んで
いる推進員の姿を見て驚きました。私も推進員として、自分自身だけでなく
社会全体に啓発できるような活動をしていきたいです。
- ・ 自ら企画するのは、どのように計画するのか、また内容・資料はどうすれ
ば良いのか難しい。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・地球の気候変動の原因が人為的であるとされ、マスコミ等でも世界の各地で地球規模の気候の変化が多く取り上げられて、また私たちが暮らす日本でも、観測史上最多の降水量、最高気温などが起きている。にも関わらず、多くの人々が、気候変動の問題に危機感を持ってるように思えない。
国も、「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」を掲げて、官民連携で、国民にライフスタイルの変革を求めているが、とても国民運動として展開されているとは思えない。もっと、官（国，県，市町村の連携），民（事業者，消費者）が有機的につながった取り組みを展開して欲しい。推進員として虚しさを感じる。
- ・さまざまな活動を行う中で、環境問題や地域脱炭素について、まだまだ市民の方々の関心が低く、問題意識や取り組みを浸透させることがなかなか難しい。自治体職員として情報発信や啓発を強化する必要がある。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・ コロナ感染症も5類に移行し、様々な取組が多様に開催され、対面による行事も増えてきました。Web開催は、参加者側では、移動の時間がいらず、取組そのものがエネルギーを余り消費しないメリットがあり便利な方法ですが、対面開催でないと得られないものも多く、目的や参加対象を考慮して開催手法を決めることが良いと思っています。今後とも様々な活動に取り組みたいと思います。
- ・ 仕事でごみに関わる事があり、食品ロスについて考えることができた。ごみの削減につながる行動を意識していきたい。
- ・ 正直、何を目的としているのか、何のための推進員なのかよくわからなかった。研修や会議がマンネリ化しているように感じた。群馬会館や県庁のビジターセンター等を使い、環境省職員や環境分野に詳しい有識者を招き、講演等を行ってほしい。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・ 二酸化炭素削減に向けた具体的なロードマップを示してもらいたい。出前講座聴講者から「おっしゃることは分かる。しかし、電気自動車や太陽光発電、エコ住宅等々、コストの面からそう簡単には受け入れることは出来ない」という意見や感想がある。また、「家庭部門削減目標66%は、どのような方策をもってして達成するのか」と端的に質問や意見を述べられても、説明に苦慮する。何故ならば小生自身、エコ住宅や電気自動車や太陽光発電などを導入していないので説得性に欠ける。環境と経済の両立のジレンマに陥る。
- ・ 研修会等は前橋市で開催されることが多く、東部地区からは参加しにくい、また平日が多く現役の方の参加も難しい。

今後も温暖化防止啓発に関する出前講座を実施したいと考えています。県からの実施希望先の情報提供を頂きたく、また、講師派遣の仕組みについての情報提供も頂けると幸いです。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・今年度は3回の研修会に出させていただきました。参加されている推進員の方々は、ご年配の方が多いと感じました。世代が偏らないよう、若い方にも推進員として参加いただけると良いと思いました。
- ・推進センター主催や地区別研修に参加させていただき、県内（藤岡市・伊勢崎市等）の自治体や民間企業が地球温暖化防止活動に積極的に取り組んでいることを再確認いたしました。今後は、自分でできることを日々努力していきたい。また、良い事例は地域に伝えていこうと思います。
- ・仕事の都合で以前のように平日昼間の会議や研修会に参加することができず心苦しく感じていますが、日常生活では『無理なく』『楽しく』『当たり前』にエコ生活を過ごしています。今後も継続して活動し、また機会があれば会議や研修会にも参加して最新情報にアップデートしていきたいと思います。

5. 感想・意見・情報提供等

- いくつかのイベントに参加していますが、やはり参加記念ギフト目当てでアンケートに回答したり、チラシを受け取る方々が今でも多いのには辛い思いを感じます。物に釣られるから、省エネがんばるぞー！！からどのように脱却するかが課題だと思いますが、20年ほど前イベントで「エコバック」を配布したら「万引きバック」に見えるので使いたくないからいらぬといわれた時代もありましたから、時間が解決するしかないのでしょうか。一緒に考えたい課題だと思います。
- 現在、林政課所管の緑のインタープリターとして活動しています。小中学生と自然観察等行いながら、地球環境問題について必ず話をするようにしています。この1年自動車の燃費を意識した運転をしてきました。回転数を上げない運転をすると驚くほど燃費がよくなりました。これからも頑張ります。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・自治体職員枠としての推進員でしたが、委嘱を受けたことで、日常生活におけるエコ活動の実践に、より積極的になれたこと、意識の向上につながるなど、効果は大きかったです。また、センター主催の会議で実践したSDGsカードゲームは特に楽しみながら学ぶことができる良い機会でした。多くの方にエコの入口として、経験していただきたいと感じました。
- ・研修会や、フォーラムなどを開催する際、会場を若者が集まる大学などにすると、その参加を促すことができる。幅広い年齢層の参加が期待できる。情報発信の方法を工夫する。紙媒体からの脱却。一方的な講義よりも、参加体験型の研修会や学習会にする。
- ・地球温暖化防止活動推進員として活動した中で、普及啓発や情報発信の必要性を感じました。地球温暖化に対しての危機感や、普段からの取り組みを積極的に行っていきたいと思いました。自主的な活動や企画はあまりできませんでした。イベント協力やボランティア活動に今後も参加していきたいと思います。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・ 現在、中学生と未就学児の育児中のため、エコよりも手軽さや時間短縮を優先してしまう。エコを意識していても、日々の多忙さで実践できないことが多いのが悩み。そんな中、2023年度は、物価高もあり、エコや節約、節電を特に意識した年になったと思う。切羽詰まらないとなかなか生活習慣を変えていくのは難しいが、やれるところからやるという意識を大切にしていきたいと思います。
- ・ 群馬県ではスマートムーブの取り入れる生活はなかなか難しいと感じる。特に、子供の送迎や通勤などは、別の切り口からエコ活動になる事があれば良いと感じる。世代別で取り組み出来ること、出来ないことがあるので、家庭環境に応じたエコ活動の提案の仕方もあると思った。また「デコ活」など新しいワードが毎年でるが、一般の人からみるとエコに関する言葉があふれているため、エコに関する感覚が鈍くなってきていると思います。言葉が先導するよりも日頃のささいな行動からつながる何かの活動があると良いと思いました。